

# NEWS

国立新美術館ニュース

4  
2015  
—冬号

[www.nact.jp](http://www.nact.jp)

## 「ルーヴル美術館展」 風俗画に込められた 謎を読み解く

展覧会担当研究員インタビュー

ヨハネス・フェルメール 《天文学者》 1668年

Photo © RMN-Grand Palais (musée du Louvre) / René-Gabriel Ojéda / distributed by AMF - DNPpartcom

# 新

THE  
NATIONAL  
ART CENTER,  
TOKYO

国立新美術館

# EXHIBITION

## 展覧会

日本最大級の展示スペースを生かし  
多彩な展覧会を開催しています

古代から19世紀半ばまでのヨーロッパ各地の美術品を所蔵する美の殿堂、フランスのルーヴル美術館。その名画の数々が、2015年2月に国立新美術館にやってきます。今回のテーマ「風俗画」の鑑賞のヒントを、本展担当研究員の宮島綾子に聞きました。

### —「風俗画」とは何ですか？

風俗画は、人々の日常生活を題材にした絵画です。ルネサンス以降の絵画理論では、古代神話や聖書に基づいて、神々や聖人を主役とした物語場面を描く「歴史画」が尊重されました。一方で、無名の人々の日常に取材した絵画は、とくに市民社会のオランダで主流を占めたにもかかわらず、それを指し示す言葉さえない時代が長く続きました。しかし、18世紀のフランスで裕福な市民層が台頭するに

つれて、身近な日常生活を題材にした絵画の人気も高まり、18世紀後半から19世紀にかけてようやく「風俗画」が一つの絵画ジャンルとして確立しました。

### —風俗画はどんな見方ができますか？

風俗画は日常の一場面を単純に再現したようにも見えますが、さまざまな見方ができます。16世紀にアントワープで活躍したマセイスの《両替商とその妻》を例にとってみると、「金貨を天秤で測る夫」と「祈祷書を手にした妻」の対比には、金銭を介して利益を追求しながらも、貪欲を罪とする信仰を保つという、相反する行為の両立が要された当時の社会状況の反映をみることができます。その一方で、この夫婦の衣服は、実はマセイスの時代よりも約1世紀前のものです。風俗画から昔の人々の服装や髪形の流行を知ることができますが、この作品のように当時の風俗を反映していない場合もあります。また、風俗画に込められた意味も、複数の解釈が考えられることもあり、一筋縄

「ルーヴル美術館展」  
風俗画に込められた  
謎を読み解く

ではいきません。《両替商とその妻》では、妻が夫の手元に向けた視線が「つい物欲から金貨に目を向けた」ように見えます。ですが、この絵のオリジナルの額の裏には、「天秤は正しく 重りは等しくあらねばならぬ」という銘文が刻まれて



クエンティン・マセイス《両替商とその妻》1514年  
Photo © RMN-Grand Palais (musée du Louvre) /  
Gérard Blot / distributed by AMF - DNPartcom

いたそうです。このことを考慮すると、妻は「夫が信心に根差して正しく金貨を量るように、正義の象徴である天秤を見守っている」という解釈もできるのです。

### — 本展覧会の鑑賞のポイントは？

広範な時代・地域にわたるヨーロッパ風俗画をテーマごとに紹介する展覧会は、今回が世界でほとんど初めての試みとなります。例えば「恋愛」をテーマにした章では、各国の恋愛模様の描き方を比較しながら鑑賞すると、それぞれのお国柄が見えて面白いかもしれません。また、キリスト教文化の絵画はちょっと敷居が高い…という日本人にも、日常生活を題材にした風俗画は、親しみやすいジャンルだと思います。まずは想像力を使って鑑賞し、興味や疑問がわいたら、作品について調べ、読み解いてみてはいかがでしょうか。

## CURATORS' VOICE



国立新美術館主任研究員・  
宮島綾子にルーヴル美術館展で  
好きな作品を聞きました。

ムリーリョの《物乞いの少年(蚤をとる少年)》が好きですね。ポロポロの服を着た男の子が、暗い部屋の片隅に座っていて、そこに窓から光が差し込む構図の作品です。貧しさのなかにもどこか救いを感じさせるような光の使い方が絶妙ですし、また男の子のかわいらしさが見る人をキュンとさせる絵だと思います。この作品は17世紀のスペインで描かれ、18世紀にフランスに渡り、何人かの持ち主を経てルーヴル美術館に所蔵されました。19世紀にはルーヴルで、多くの芸術家たちがこの作品を模写したそうで、セザンヌもその名簿に名前が残っています。1966年に東京国立博物館で開催された17世紀絵画の展覧会に出品されていますので、今回は49年ぶりの来日ということになります。

### ルーヴル美術館展

日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄

会 期：2015年2月21日(土) — 6月1日(月)  
休 館 日：毎週火曜日(ただし5月5日・26日は開館)  
開館時間：10:00~18:00  
金曜日、5月23日(土)、24日(日)、30日(土)、  
31日(日)は20:00まで開館  
※入場は閉館の30分前まで  
会 場：企画展示室1E

# EDUCATION

教育普及

美術に親しむワークショップや講演会の開催、鑑賞ガイドブックの配布などを行っています

## 国立新美術館のインターン事業

国立新美術館では、大学院生や若手研究者を対象としてインターンを毎年募集し、本年度は展覧会事業、教育普及事業、広報事業の3つの部門で計7名のインターンが活動しています。

展覧会部門では、展覧会の調査にはじまり、カタログの編集作業から展示作業の見学・補助までを経験することで、展覧会の作られ方を学びます。

教育普及部門では、ワークショップの運営補助を通して来館者と直接触れ合い、美術に親しむための教育普及プログラムの

在り方について考え、実際にワークショップの企画までを経験します。

広報部門では、展覧会の記者発表会の補助や国立新美術館が掲載された記事の収集など、美術館とメディアの関わりを学びながら多くの人に来館してもらえるような広報活動を担当者と企画します。

どの部門も美術館でしか出来ない体験を軸に活動しており、修了時には、美術館の現場を知ることが出来た、研究員と交流出来て良かったという声をいただいています。



カタログの編集を行う様子（展覧会事業）



ワークショップの補助をしている様子（教育普及事業）

※インターンの募集について：毎年12月～2月頃にかけて国立新美術館のホームページ上で募集告知しています。

## アトライブラリーで 展覧会カタログを探す！



国立新美術館アトライブラリーでは、展覧会カタログの収集に力を入れています。今回は展覧会カタログを探すための手がかりになる「請求記号」についてご案内します。

美術館3階のアトライブラリーに入ると、左手からぐりと展覧会カタログが並んでいます。これらの展覧会カタログは、国内で開催された個展やグループ展、公募展、海外で開催された展覧会等、展覧会の形態ごとに分かれています。その時

並び方を決めているのが、背表紙に貼ってあるラベルに書かれた「請求記号」です。請求記号は、どこに資料があるかを示すためのものです。たとえば、下の写真の請求記号ラベルを見てみましょう。1段目の「CO」は日本人作家の個展カタログ、2段目は作家を表す記号、3段目は展覧会の開催年を表しています。これによって、同じ作家のカタログがまとまって見られるのです。

展覧会カタログをお探しになる際は、背表紙の請求記号ラベルにも注目してみてください。展覧会に応じた請求記号をヒントに書架を見てみると、資料との新たな出会いがあるかもしれません。



請求記号ラベル



※本画像は著作権使用許諾の条件上、現在表示できません。

ルネ・マグリット〈ゴルコンダ〉1953年 油彩／  
カンヴァス 80x100.3cm メニル・コレクション  
The Menil Collection, Houston  
©Charly Herscovici/ADAGP, Paris, 2014

## マグリット展

会期：2015年3月25日(水)―6月29日(月)

主催：国立新美術館、ベルギー王立美術館、読売新聞社、TBS

会場：企画展示室2E

ルネ・マグリット（1898–1967）は、シュルレアリスムを代表する画家です。国内では13年ぶりの回顧展となる本展は、ベルギー王立美術館・マグリット美術館、マグリット財団の協力を得て、国内外から選りすぐった作品約120点により、その画業の全貌を紹介します。



## ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム (仮称)

会期：2015年6月24日(水)―8月31日(月)

主催：国立新美術館

会場：企画展示室1E

本展覧会は、手塚治虫が亡くなった1989年から現在までの25年間に焦点をあて、複合的メディア表現として深化している日本のマンガ、アニメ、ゲームを総合的に展望し、私達の想像力と創造力を再発見することを目指すものです。

## 2015年夏、日本と韓国の現代美術家たちによる 「アーティスト・ファイル2015」展 (仮称) に注目！

国立新美術館は、国の内外で目覚ましい活躍をみせる現代美術家を紹介する「アーティスト・ファイル」展を、2008年から計5回にわたって開催してきました。そして今、こうした展覧会の蓄積をもとに、また、現代美術をとりまくグローバルな状況も視野に入れつつ、韓国国立現代美術館と協同して新たなプロジェクトに取り組んでいます。現在、両美術館の担当者は、日本と韓国を行き来して優れた美術家たちを調査しています。その成果として開催を予定している新たな「アーティスト・ファイル」展は、2015年7月下旬に東京・六本木で立ち上がり、その後ソウルに巡回する予定です。ぜひご期待ください。

公  
募  
展

# 「光風会展」 公募団体等の活動

明治44年白馬会が解散した翌45年に中沢弘光、杉浦非水ら7氏によって光風会は創立されました。上野竹之台陳列館において第1回展を開催し、103年が経ちます。

設立趣意書に「春が来て無意識に咲く野の草花の様なもの」「隠れた無名の花を自由に紹介する広い花園を開拓した」と会の理念が示され、品位ある展覧会として定評をいただいています。



第100回記念光風会展(2014年)会場風景

2014年4月、光風会は国立新美術館にて第100回記念光風会展を盛大に開催しました。記念事業として、展覧会「洋画家たちの青春—白馬会から光風会へ」、選抜展の開催、図書「光風会史—100回記念」の刊行、記念グッズの販売等を実施しました。

絵画・工芸からなり会員数670人、一般出品者約500人で展示総数は1,100点を超え、会員・一般入選者の優秀な作品に賞が授与されます。展覧会開催中は、作品研究会、講演会、ギャラリートーク等を開催し、出品者の意識の高揚と鑑賞者に楽しく見ていただけるよう企画しています。他に、巡回展や講習会の開催、機関紙「光風だより」の刊行等を行い、会員相互の協力のもとで、堅実な歩みを続け今日に至っています。

(光風会事務局長 大谷喜男)

## 館内レストラン&カフェにて、 「ルーヴル美術館展」特別メニューを提供

2月よりスタートする「ルーヴル美術館展」にちなんだ特別メニューを館内4店舗にて提供します。名画にインスピレーションを受けた展覧会特別メニュー、デザート、ドリンクをお楽しみいただけます。展覧会鑑賞後、ディナータイムのレストランご利用もおおすすめです。



2階「サロンド・ド・テロンド」のルーヴル美術館展特別デザート

## 「テラダモケイのお花見」展 2015年1月21日(水)―3月30日(月)

テラダモケイは、模型を通じて、モノに縮尺を与え、ディテールを与えることで生まれる造形の可能性を探っていくことを目的に設立されました。SFTギャラリーでは、お花見をテーマに、1/100の添景模型とその1/1の原寸に拡大した模型によるインスタレーション展示を行います。



## PICK UP ピックアップ

### 美術館で過ごす金曜の夜

国立新美術館では、企画展会期中の毎週金曜日は20:00まで夜間開館を行っています（最終入場は19:30まで。公募展は展覧会によって異なります）。また、館内のミュージアムショップやカフェ、レストランも営業時間を延長しています。夜間開館日は比較的空いているため、ゆっくりとした時間を過ごしていただけます。また、夜は館内の壁から放たれる温かみのある光が、ガラスの外壁を通して外にも溢れ出します。昼間とは違った幻想的な夜の美術館をお楽しみください。

